

# 広島県立

もんじょかん

# 文書館だより

NO.46



HIROSHIMA PREFECTURAL ARCHIVES NEWS

2022.3



## 広島駅三代の変遷



左上:明治27年山陽鉄道開通時にできた初代広島駅。 右:大正11年建築の2代目広島駅。 左下:昭和40年建築の3代目広島駅。

(長船友則氏収集資料200407)

長年親しまれた広島駅ビルが解体され、新駅ビル建設に向けて工事が進むのに合わせ、当館では写真展「広島駅の歴史」を開催しました(七月六日開催後、新型コロナウイルス対策のため中断、十月一日〜十二月二十七日再度開催)。

広島駅はこれまで三代の駅舎がありました。初代の広島駅は、日清開戦を目前に控えた明治二十七年(一八九四)四月に建設されました。軍や中央からの強硬な意向を受けて、山陽鉄道株式会社の突貫工事により駅舎が完成。広島第五師団に動員令が下った直後の六月十日、広島駅の開業を祝う式典が慌ただしく行われました。開業時の駅舎は平屋建ての瓦葺きで、改札口は一ヶ所、プラットフォーム二本、照明もランプを吊るすだけの簡素な造りでした。

二代目の広島駅は大正十一年(一九二二)八月二十七日に完成しました。当時の広島駅は、第一次大戦の好況を受けて、中国地方一の大駅として発展を遂げており、明治期の木造駅舎のままでは急増する乗降客を賄えきれなくなっていました。こうした状況を背景に、日本初の鉄筋コンクリート二階建てで建設されました。この鉄筋駅舎は、岡山駅をはじめ、その後の駅改築ブームの走りとなりました。

昭和二十年(一九四五)八月六日、原爆の惨禍は広島駅にも及び、駅やその周辺は爆風と猛火に襲われました。戦時中、乗降客が年間一千万人を突破していた広島駅は、正面玄関に新たに張り出し二階を増設し、待合室や出札口を置いていましたが、原爆はこの待合室を倒壊・焼失させ、多くの旅客・駅職員が亡くなりました。

戦後広島駅の復興は、原爆の惨禍で焼け残った鉄筋コンクリート駅舎の補修と共に進められました。昭和二十四年(一九四九)には、駅舎正面に張り出す形で出札室が増設され、平和都市広島の表玄関としての体裁を整えました。しかし、被爆建物を使い続けることはできないとして、国鉄や広島県・市などで新築計画が協議され、国鉄の予算不足から、総工費の多くを民間資本で賄う「民衆駅」として建設されることが昭和三十四年(一九五九)に決まりました。国鉄で最も古い鉄筋駅となっていた旧駅舎は昭和三十九年(一九六四)六月に撤去され、その後一年八ヶ月の工期を経て、昭和四十年(一九六五)十二月二日、三代目の広島駅が地上六階(一部七階・地下一階の「広島ステーションビル」として完成しました。(西向宏介)

《収蔵資料紹介》  
「事務報告書」から見えること

一 はじめに

広島県立文書館では、令和三年（二〇二二）三月に「広島県立文書館データベースシステム」の運用を開始しました。いつでも、どこでも、だれでも館蔵資料を検索することが可能になりました。

今回のテーマとなる「事務報告書」を検索すると、五九件の結果を得ることができます。「芸北町役場文書」（一九八九一）と「山野村役場文書」（一九九六〇七）の中に含まれていることがわかります。また、「広島市事務報告書」、「両備鉄道株式会社」や「広島電気株式会社」などの事務報告書が所蔵されていることがわかります。この中から、町村の「事務報告書」に注目したいと思います。

二 事務報告書とは

ここで、「事務報告書」について簡単に説明します。明治二十二年（一八八九）の市制・町村制により近代の市町村が成立します。それを定める「町村制」（明治二十一年四月二十五日法律第一号）の第一〇八条に「予算表ヲ町村会ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ」と規定されたため、作成されるようになりました。一単年度の事務内容が記載されています。

が、自治体や時代によって項目数や内容記載方法が異なります。

「芸北町役場文書」にある山県郡雄鹿原村（現北広島町）役場の報告書を例に取り上げます。明治二十五年度には、教育事務・衛生事務・土木事務・事務監督・歳入出事務の五項目でした。それが、明治二十七年年度には、一二項目に細分化され、事務全体ノ情況・事務ノ件数・事務分課及付属吏員ノ配置・吏員公務旅行ノ度数及日数・土木事業・教育・勸業・衛生・収税・会計・村会・基本財産となっています。

また、大正十四年（一九二五）度には、財産表（事務全体ノ状況）・戸籍ノ部・兵事ノ部・国税ノ部・地理ノ部・土木ノ部・衛生ノ部・学務ノ部・県村税ノ部・国勢調査・畜牛気腫痘予防注射（村会議員選挙）と吏員勤務調・転寄留其他件数・村勢一覧などの統計データと文章での説明で構成されています（一六項目）。年度によっては、地理や兵事、畜産に関する項目がみられます。

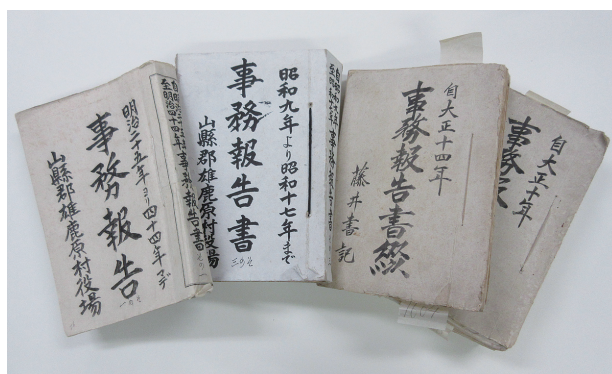
同じ年度でも、安那郡山野村（現福山市）では、様相が異なります。大正十四年の山野村事務報告書では、はじめに全体概況を記し、吏員勤務及び主管事務状況（表）・勸業ノ状況・衛生ノ状況・国勢調査ノ状況・選挙ノ状況・学事ノ状況・社寺ノ状況・文書往復ノ状況・土木ノ状況・戸籍寄留其ノ他ノ状況・農業実地指導状況・出納ノ状況・納税ノ状況・議事

ノ状況・県税ノ状況・村税負担ノ状況・兵事ノ状況・国税ノ状況が記載されています（一九項目）。

このように項目を比較するだけでも、「事務報告書」は、地域の概要や特徴を理解する上で必要不可欠な資料といえます。そのため、地域の歴史をまとめる自治体史編纂では、「事務報告書」について、早い段階で調査します。自治体によっては、一部分を抜き出し資料編に掲載するだけでなく、資料集や調査報告書として翻刻・刊行することで地域史研究に活用できるようにしています。

三 年度を通じてみると

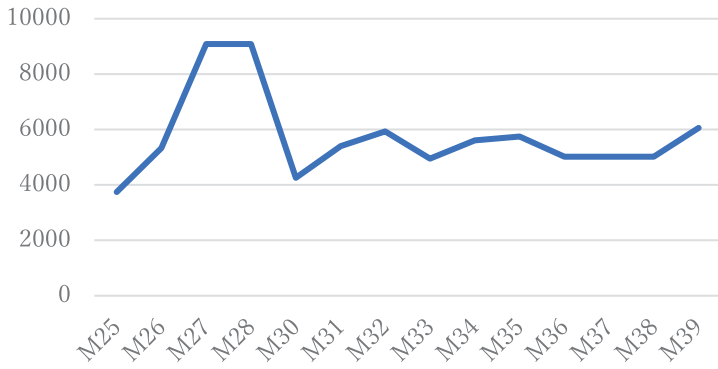
事務報告書は、役場文書、議会関係資料や個人所蔵資料の中にバラバラに保存されていることが多く、見つけ出すのに労力が必要な資料です。幸いなことに、県立文書館に収蔵されている事務報告書は、複数年度の報告書が一綴りになっています。たとえば、「芸北町役場文書」の場合、明治二十五～四十四年（198911-1709）、大正十一年～昭和八年（198911-1710）、昭和九年～十七年（198911-1704）の三綴に分かれています。このことから、各年の雄鹿原村役場の概要を知ることができ（一部欠号あり）。また、「山野村役場文書」の場合も大正十年～（昭和九年）（199607-5840）、大正十四年～（昭和七年）（199607-1604）で一綴となっています。



芸北町役場文書（左2冊・198911）と山野村役場文書（右2冊・199607）の「事務報告書」

このことは、時間の経過に伴う変遷を考慮することを容易にしてくれます。

雄鹿原村役場の事務報告書には、明治二十五年から三十九年にかけての事務取扱件数がまとめられています。庶務、議事、兵事、戸籍・社寺、学務、衛生、勸業、土木、地理、収税、会計の一一に区分けした上で、来翰・往翰（来翰については更に、要処分・不要処分に細分化）の件数が記載されています。それを集計し、グラフ化した（三三頁参照）。グラフは来翰・往翰を合算した総数の変遷を示しています。ここからは、明治二十七年から二十八年にかけて突出しているこ



明治25年～39年までの雄鹿原村における事務取扱総数

とがわかります。その理由を、この間の事務状況から検討してみることになります。

■雄鹿原村 明治二十七年 事務報告書 一、事務全体ノ状況

本村ノ事務ハ本年度ニ於テ大ニ増加セリ、則チ兵役召集事務及伝染病発生、其他土木事業ノ為メ、事務是モ多キヲ来セリ、然レトモ兵役事務ニ於テハ或ハ漸次減少ヲ告クルモ、土木事務ニ至リテハ継続事業ナルニ依リ、翌年度ニ至リテモ減少ノ

見込ナシ、尚教育ハ、近来大ニ拡張ヲ見ルニ至リタリト雖モ、今後益々盛大ニセサル可カラサルノ情况ナレバ、従テ将来尚事務ヲ増スノ見込ナリ

■雄鹿原村 明治二十八年 事務報告書

本村ノ事務ハ前年ト略同一ナリ、然レトモ臨時土木事業ハ最終年度ナルヲ以テ事務繁多ヲ極メ、其他土地台帳整理等前年ニ比シ事務多キヲ加ヘタリ、併シ、翌年ニ至ラハ土木事務ハ減少スルモ、之レニ引替気象観測事務及町村地図ノ調整并ニ名寄帳新調ヲ要スル等、尚事務ハ増加ノ見込ナリ、教育ハ近来年ヲ追テ進歩シ、随テ事務ヲ増セリ、今后、益々盛大ニ拡張スル見込ナレバ、尚之レニ関スル事務ハ増加スルノ見込ナリ

極端に事務量が増えた理由として、臨時土木事業や土地台帳整理などの事務が多かったことが窺えます。また、日清戦争の兵役事務も繁忙の要因となりました。

四 二つの村を比べてみると

次に、視点を変え、同じ事業を比較してみます。日本で最初の国勢調査は大正九年に行われます。その五年後に行われた、第二回国勢調査（大正十四年）の記事について、雄鹿原村と山野村とを取り上げて比較してみたいと思います。

■雄鹿原村 大正十四年度 事務報告書

大正十四年五月二十二日勅令第二百一号ヲ以テ、大正十四年国勢調査施行令ヲ公布セラレ、十一月一日午前零時ノ現在ニ依リ之ヲ行ハレタリ、本村ニ於テコノ事務ニ当レルモノ、左ノ如シ

〔中略〕

本調査事務ノ概況左ノ如シ  
七月一日 事務取扱主任者選任、郡長へ報告  
七月七日 国勢調査事務ニ関シ、主任者郡役所ニ招集、訓辞及指示ヲ受ク  
七月八日 調査区設定認可申請  
八月二十四日 国勢調査員ニ辞令書交付  
九月十七日 調査員訓練  
九月二十日・二十一日 村内へ宣伝ノ為主任者派遣  
九月二十二日 本日ヨリ準備調査施行  
九月三十日 申告書用紙ヲ各世帯ニ配布ス

十月一日 申告書蒐集  
十月五日 各調査員ヨリ申告書照査表ヲ提出ス  
十月十二日 要計表ヲ郡長ニ提出  
十月自十三日至十九日 結果表作成  
十月二十日 申告書・結果表・照査表ヲ取纏メ、郡役所ニ提出ス  
本調査ノ結果左ノ如シ  
〔表省略〕

■山野村 大正十四年度 事務報告書

国勢調査ノ状況  
大正十四年国勢調査施行令第一条ニ依リ、

本年十月一日午前零時現在ヲ調査スルニ当リ、本村内ヲ十六調査区トシ、調査員十六名予備員四名ヲ置キ、夫々受持調査区ヲ指定シ、九月十七日事務ニ関スル打合ヲナシ、規定期日ニ準備調査ヲ了シ、十月一日午前八時ヨリ各区共申告書ノ蒐集ヲ行ヒ、同月五日全ク照査表及申告書ノ蒐集ヲ了シ、其後申告書ノ調査ヲ行ヒ、要計表及結果表等十二月末日全ク事務ヲ終了セリ、其ノ結果ノ大略左ノ如シ  
〔表省略〕

両者を見比べると事務の実際が浮かびあがってきます。一方で、全国一斉に行われる事業でも、記録にとどめるという点では温度差があることが分かります。

五 おわりに

「事務報告書」は、事務概要を淡々と記載しています。しかし、出来事や、継続的な変化、他村との比較により小さな気つきも浮かびあがってきます。そのため、卒業論文や歴史研究・地域史研究の手がかりとして利用することができます。

さて、「事務報告書」は、現在の自治体においても作成されています。実施機関によっては、行政報告書・事業報告書・概要書などの名称で公表されています。事業の概要を知るための調査や就職活動における団体研究に役立つ資料です。調べものの「はじまり」として活用して

はいかかでしょうか。 (新原淳弘)

《閲覧室から》  
**広島市の戦災復興土地区画整理事業(西部復興)に係る換地図等の電子データ化**

広島県立文書館が所蔵する行政文書の中で、近年最も利用頻度が高いのが、広島市の戦災復興土地区画整理事業(西部復興)に係る換地図とその関連資料です。土地家屋調査士等の方々が土地境界を確定するための参考資料として閲覧・複写されることが多く、令和二年度には延べ二五人、一九八冊の利用がありました。当館では、これらの資料の閲覧・複写の利便性を高めるとともに、頻回の利用による劣化を防ぐため、令和三年度から電子データ化に着手しました。

原爆被災によって壊滅的な被害を受けた広島市は、終戦後、市中心部の半径2kmの土地(当初の計画面積約一、五二〇ha)を対象として、戦災復興土地区画整理事業を実施しました。この事業では、対象地のうち東部を広島市が、西部を広島県が担当し、昭和二十一年(一九四六)十月に都市計画決定、十一月から施行されました。事業期間は昭和四十七年一月までの二十五年以上に及び、土地区画の整理・確定によって、戦後の広島市の発展の基礎が築かれました(最終的な施行面積は一、〇九三ha)。

当館は、広島県による西部復興事業を推進した現地機関である広島復興事務所(のちの広島都市計画事務所、現在の西

部建設事務所)の行政文書一、〇五七冊を所蔵しています(東部復興事業の文書は広島市公文書館が所蔵)。その中には、現地機関ならではの、事業の詳細が分かる文書が多く含まれています。

西部復興は、昭和三十四年七月の計画変更により、一工区と二工区に分けて実施することになりましたが、各工区の地区名と町名・旧町名、及び換地処分関係の主な文書を下表にまとめました。この中には、法務局等の他機関が所蔵していない貴重な図面も含まれています。これらの文書以外にも、審議会の関係資料や陳情書等があり、広島市の戦災復興史研究に活用することができます。

なお、広島復興事務所は、昭和三十三年から四十五年までに実施された大芝地区の土地区画整理事業も担当しており、その関係文書(換地図等)も含まれています。これらの文書も、併せてデータ化する予定です。

(荒木清二)



中島地区の換地図(確定図)  
 【S01-2012-576・577】

戦災復興土地区画整理事業(西部復興)の対象地域と文書

工区	地区名	町名	旧町名	換地処分関係の主な文書
一工区	三篠・横川	三篠北町(一部)、大芝町(一部)、楠木町1~4丁目、三篠町1~3丁目、三滝町、打越町、横川町1~3丁目、横川新町	楠木町1~4丁目、三篠本町1~3丁目、横川町1~3丁目、打越町、三滝町	【確定図】S01-2012-556~563 【整理後換地図】S01-2012-590・591 【実態図(換地前)】S01-2012-999~1001 【測量計算書】S01-2012-526・527(横川)、534~536(三篠)
	中広・天満	中広町1~3丁目、上天満町、天満町、観音町、小河内町2丁目(一部)	中広町、上天満町、天満町、西天満町、東観音町1丁目(一部)、西観音町1丁目(一部)	【確定図】S01-2012-564~566 【整理後換地図】S01-2012-593 【従前図】S01-2012-601 【測量計算書】S01-2012-537
	鷹匠	寺町、広瀬北町、本川町1~3丁目、十日市町1・2丁目、広瀬町、西十日市町、榎町、猫屋町、塚町1・2丁目、土橋町、小網町	寺町、広瀬北町、空鞆町、鷹匠町、西引御堂町、広瀬元町、錦町、西九軒町、新市町、横堀町、北榎町、鍛冶屋町、左官町、十日市町、油屋町、猫屋町、榎町、西大工町、塚町1~4丁目、塚本町、西地方町(一部)、西新町(一部)、小網町(一部)	【確定図】S01-2012-569、571 【整理後換地図】S01-2012-570、587 【従前図】S01-2012-603 【測量計算書】S01-2012-521・522
	観音	東観音町、西観音町、観音本町1・2丁目、南観音町	東観音町1丁目(一部)・2丁目、西観音町1丁目(一部)・2丁目、観音本町、南観音町	【確定図】S01-2012-552~555 【整理後換地図】S01-2012-592 【従前図】S01-2012-600 【測量計算書】S01-2012-523・524
	舟入	河原町、舟入町、舟入中町、舟入本町、舟入幸町、舟入川口町、西川口町	舟入町、河原町、舟入仲町、舟入本町、舟入幸町、舟入川口町、小網町(一部)、西新町(一部)、西地方町(一部)	【確定図】S01-2012-572~575 【整理後換地図】S01-2012-588 【従前図】S01-2012-604 【測量計算書】S01-2012-532・533
	中島	中島町、加古町、住吉町、羽衣町、吉島町	材木町、木挽町、天神町、中島新町、水主町、吉島町、吉島羽衣町	【確定図】S01-2012-576~579 【整理後換地図】S01-2012-589 【従前図】S01-2012-605~607 【測量計算書】S01-2012-525
二工区	福島	小河内町1・2丁目(一部)、福島町	南三篠町、福島町	【確定図】S01-2012-580~581 【換地図】S01-2012-1024 【従前図】S01-2012-610 【測量計算書】S01-2012-528~531

《収蔵文書展に寄せて》  
高野虎市に寄せられた「期待」  
——チャップリンの日本人秘書——

### 高野虎市とチャップリンの出会い

「世界の喜劇王」チャップリン（一八九〇―一九七七）の日本人秘書として知られる高野虎市（一八八五―一九七二）は、故郷の広島で晩年を過ごし、一九七一年三月に亡くなりました。二〇一七年に当館は、広島で余生を共に過ごした女性のご家族から、高野の秘書時代の貴重な写真や、高野に宛てられた手紙などの寄贈を受けました（高野虎市資料、二〇一六―二二）。没後五十一年目に当たる二〇二二年、これらを紹介する収蔵文書展「チャップリンの日本人秘書高野虎市——「コーノ」に寄せられた期待——」を開催いたします。

### 高野虎市の渡米

高野虎市は一八八五年に安佐郡八木村（現広島市安佐南区）の裕福な中流階級の家に生まれ、十五歳で単身、シアトル



チャップリン（左）と高野虎市（右）  
1921年（高野虎市文書9-1）

のいところを頼ってアメリカへ渡りました。当時の広島県は全国一の移民送出県で、特に安佐郡からの移民は県内でも群を抜いていました。

高野はシアトルに上陸後、雑貨店店員や鉄道の赤帽などを経験した後、夫婦でロサンゼルスへ移り、自動車運転手をしていた一九一六年に、専属運転手を募集していたチャップリンと出会います。渡米してからすでに十六年を経過し、高野は三十一歳となっていました。

### チャップリンの秘書として

誠実で勤勉な高野はチャップリンからの気まぐれな要求にもよく応え、次第に信頼され、一九二一年にチャップリンの秘書となりました。チャップリンは「コーノは何でもする」と書き残しています。

高野は「私的な生活から、撮影所での一切を委任されてゐる人、つまり金庫の鍵まであづけられ」（牛原彦彦談、高野虎市資料12）てチャップリンを陰から支えました。チャップリンは高野の屋敷を撮影所の一画に与え、一九一九年に生まれた高野の長男スペインサーには、自分のミドルネームを与えて名付け親になるなど、二人の厚い信頼関係は十八年間続きました。

一八八九年に英国のロンドンで生まれたチャールズ・スペインサー・チャップリンは、劇団の米国巡業でスカウトされ、一九一四年に銀幕デビューしました。短編に出演してから、ちよびひげに山高帽、



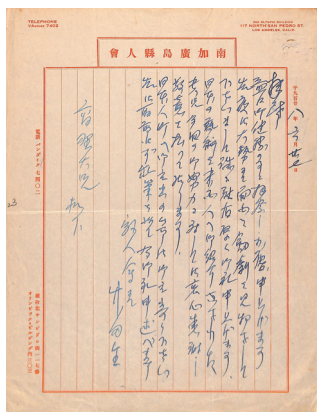
遠山満の剣劇一座と高野虎市（中央）  
1928年（高野虎市資料17-22）

だぶだぶズボンとドタ靴に小さな上着、ステッキを片手に滑稽に歩く独特のキャラクターで人気を博し、独立してからは長編映画も監督、製作するようになりました。映画は日本でも公開され、チャップリンは映画界で一、二を争う人気者になりました。

チャップリンも高野を通じて大変な日本虜となりました。高野が日本から連れてきた妻イサミ（安佐郡三入村出身）の弟を自邸の庭師として雇い入れたほか、料理人や女中、運転手など、多いときは一七人いた使用人がすべて日本人で、広島出身者も多かったといえます。

一九二八年、ロサンゼルスで興行した遠山満の剣劇一座の公演に、高野がチャップリンを連れて行ったところ、「なんとすばらしい人情の演出だろう」と夢中に

なりました。チャップリンがこの素晴らしい芸術を米国人に紹介したいと、映画界の大立者ばかりを集めて見せたところ、「チャップリンが認めた」と評判になり、一座は米国西海岸を中心に、各地の劇場や映画館で引つ張りだことなり、日米親善に一役を買うことになりました。南カリフォルニア広島県人会の竹田は一九二八年に「ケンゲキ」を観劇し、「日本の芸術を米国人へ御紹介下された貴兄、今回の御努力に対して御衷心感謝し敬意を払って居ります」（高野虎市資料23 11）と高野を称賛しました。チャップリンはこれを機に歌舞伎などにも興味を持つようになりました。



南加広島県人会竹田の手紙  
1928年（高野虎市資料23-11）

### スタジオ見学を希望する日本人

気難しい性格で知られるチャップリンは、スタジオ見学で世界各国から訪れた著名人が面会を希望しても会おうとはしませんでした。しかし、後に日本でサイレントからトーキー黎明期の監督として知られるようになる牛原彦彦が高野を頼つ



右から渡辺忠雄、藤田一郎、高野虎市、森田福市  
1930年（高野虎市資料9-28）

てスタジオ見学に来ると、撮影中の『サーカス』（一九二八）への参加を許すまでに歓待し、牛原は帰国後に「チャップリンの弟子」と言われるようになりました。帰国後牛原は「お蔭様でチャップリン様の許であれほど深い勉強をすることが出来ましたこと幾重にも幾重にも深く御礼申し上げます。」とお礼の手紙を書き送っています（高野虎市資料33・14）。

また、牛原は高野へ手紙を送って、後に松竹の社長として活躍する城戸四郎や、映画の優秀新人撮影監督に与えられる「三浦賞」に名を残すカメラマンの三浦光男、華族出身で無声映画監督となった小笠原明峰など、ハリウッドの見学を希望する日本の多くの映画関係者を手紙で紹介しています。その結果、彼らはチャップリンと面会し、一緒に写真を撮影するなどの厚遇を得ることができました。

高野を通じてチャップリンのスタジオを見学したのは映画関係者だけではありませんでした。高野虎市資料の中には、日本の軍人、政治家、外交官、官僚、実業家、百貨店、ジャーナリストなど、多くの日本人がスタジオを見学し、チャップリンとの記念写真を送付してもらった感激を高野へ送った礼状の中で書き綴っているのです。

広島が同郷であることを頼り、一九三〇年に欧米視察の途中でチャップリンスタジオを見学したのが、建設会社藤田組（現フジタ）の創業者藤田一郎（一八八六〜一九四九、前広島県知事の藤田雄山は一郎の弟の孫）一行でした。一行には顧問弁護士の渡辺忠雄（一八九八〜一九八〇、戦後に二代広島市長に就任）や、神石郡出身の貴族院議員森田福市らも同行しており、その記念写真も残されています。これが縁となり高野はその後も渡辺と交流を続け、戦後に広島へ帰郷した高野に、余生を共に過ごすことになる女性を紹介したのはこの渡辺でした。

チャップリンの来日と高野虎市『街の灯』を完成させたチャップリンは高野を伴い、一九三一年二月、ニューヨークから世界旅行へと出航しました。チャップリンは、ラフカディオ・ハーンによつて紹介された日本の文化や演劇に興味をそそられ、憧れのような気持ちを抱くようになり、旅行の最後の目的地として高野の母国、日本を選びました。

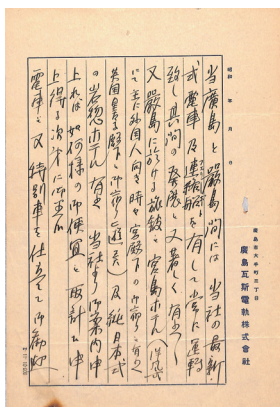


高野虎市寄贈の警鐘台跡（安佐南区八木）

では特定の都市に長期滞在することもあり、神戸へ着いたのは翌年五月十四日のことでした。一行から離れ、一足先に日本に着いた高野は、久しぶりに八木村へ帰郷しています。現在でも高野の生家の近くには、その時に地元へ贈った「寄付者 在米高野虎市 昭和七年四月十二日」と刻まれた警鐘台の台座が残されています（警鐘台は一九九一年の台風で倒壊）。

チャップリンの日本訪問の噂はその数年前から高野によつてもたらされ、日本のファンは期待に胸を膨らませていました。映画ファンだけでなく、チャップリンを招待して取材したいマスコミ、自著を献本したい作家、宿泊してほしいホテル経営者、商品の宣伝をしてほしい営業マン、米国で映画に出演したい役者の卵、息子を俳優にしようとチャップリンへの弟子入りを希望する母親など、チャップリンを利用して飛躍の足掛かりを得たいと希望する人たちが、チャップリンに取り次いでもらおうと高野へ手紙を送ってきました。ある広島の若者は「日本を最もよく理解する、チャーリー氏が、一個の品物としての磨かれざる球に優しき未来を期待させて下される事を心に念じ乍ら無躰な身書を」手紙と一緒に高野へ送ってきました（高野虎市資料23・44）。

チャップリンの旅は気まぐれで、欧州



豊島愛明の手紙 1932年  
（高野虎市資料27-29）

### 収蔵文書展

チャップリンの日本人秘書高野虎市  
—「コーノ」に寄せられた期待—

期間 令和4年3月29日(火)～6月11日(土)

場所 広島県立文書館展示室

### 関連行事 文書館講演会(展示説明会)

(収蔵文書展に関連した内容を予定)

期日 令和4年6月4日(土) 10:00～12:00

場所 広島県立文書館研修・会議室

講師 西村 晃(広島県立文書館研究員  
(エルダー))ほか

※変更または中止の場合があります。

いう談話を残しています。チャップリンと一緒に故郷に錦を飾ろうと夢見ていたのです。

しかし、高野が「氏は非常に静かなことを好み、狂的歓迎を嫌ふ性質なので、(中略)皆さんは彼を遇するに自由と解放を与えてやっていただきたいのです。」

(同紙)と訴えたにもかかわらず、チャップリン一行が東京へ向かう特別列車は途中の駅で停車するたびに、興奮した群衆がホームにあふれ、着飾った少女たちがチャップリンを贈り物攻めにしました。

東京駅では同行したチャップリンの兄シドニーが混雑の中で転び、危うく踏みつぶされるところでした。そしてその翌日、五・一五事件が起こり、犬養毅首相が暗殺されます(後にチャップリン自身も暗殺の対象となっていたことが判明する)。国内の歓迎ムードは一転して自粛となり、

チャップリンも帰国を口にするようになります。高野が説得して歌舞伎見物や、天麩羅料理などの銀ブラを楽しみますが、東京以外に出かけたのは箱根だけで、六月二日に一行は横浜を出航して米国へ帰国し、チャップリンの広島訪問の夢は幻となりました。(西村 晃)

参考文献『チャップリン自伝』(新潮文庫)、「チャップリンの影法師」①、⑫(一九九七年『中国新聞』連載)、大野裕之『チャップリンの影 日本人秘書高野虎市』(二〇〇九年、講談社)

### 令和二年度に収集した古文書

藤原惣一収集文書(寄贈)

比婆郡山内西村(庄原市)の藤原惣一が収集した県内観光地や備北の絵葉書二六〇点。惣一に宛てられた軍事郵便も含む。(請求番号二〇二〇〇一一)

旧埼玉県蚕業試験場所蔵文書(寄贈)

広島県蚕業試験場が発行した事蹟報告や試験成績概要(大正～戦前期)、広島県立農業試験場が発行した試験成績書(戦後)など五一点。埼玉県蚕業試験場の廃止後、県立熊谷図書館が所蔵していた。(請求番号二〇二〇〇一二)

横田登旧蔵文書(寄贈)

「広島県物産陳列館」(現原爆ドーム)

の蔵書印や、備品ラベルが貼付された『四季の花』(芸艸堂発行)などの図書五一点。同館の職員と思われる横田登が借り出したままになっていたと考えられる。(請求番号二〇二〇〇三三)

上原区有文書(寄託)

高宮郡上原村(広島市安佐北区)で、地域の共有文書として、歴代の自治会長が持ち回りで保存してきた、享保の山帳や御用留、差出帳、宗旨改帳などの庄屋文書や、明治以降の道路・堤防改修や入会山など上原地区に関する文書二、〇六七点。(請求番号二〇二〇〇四)

田中眞一文書(寄贈)

田中眞一が広島県引揚同胞更生会・在外資産補償確定期成同盟広島支部を通じて提出した、引揚者特別交付金申請書の控など二〇点。(請求番号二〇二〇〇五)

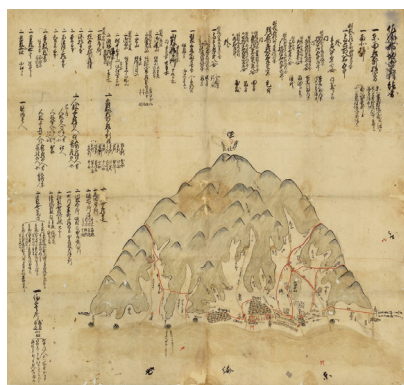
横山家文書(寄贈)

横山家は高宮郡鈴張村(広島市安佐北区)で庄屋や戸長を務めた。昭和初年の鈴張村養蚕実行組合文書、県立八重実業学校学生の歌集や料理集など二五点。(請求番号二〇二〇〇六)

渡辺家文書(寄贈)

渡辺家は佐伯郡地御前村(廿日市市)で庄屋・組頭などを務めた。寛永地詰帳写、年貢免状、指出帳、国郡志下しらべ

書出帖、御用留などの庄屋文書や、播州明石新浜浦年寄が発給した浦手形、地御前村の村絵図など一九八点。(請求番号二〇二〇〇七)



地御前村絵図 (202007-198)

永井(操)家文書(寄贈)

高田郡三田村(広島市安佐北区)の上三田で庄屋などを務めた永井(操)家に伝来した庄屋文書など三六箱分。(請求番号二〇二〇〇八)

佐伯家文書(寄贈)

明治九年(一八七六)に、佐伯郡保井田村(広島市佐伯区)大組総代佐伯新右衛門によって調製された「田畑宅墓敷反別順番帳」など三点。(請求番号二〇二〇〇九)

専法寺文書(寄託)

三次郡三次町(三次市)の浄土真宗専法寺に伝来した「広島引越当所御家中衆」

一点。三次藩廢藩後も三次に残った旧藩士は、広島城下の東半分が焼失した宝暦大火があった宝暦八年（一七五八）に広島へ引越した。その引越し先の城下町名などが記される。（請求番号二〇二〇一〇）

松崎（守）家文書（寄贈）

帝釈富くじ合鑑二点。奴可郡森村（庄原市東城町）で長百姓を務めていた松崎家にあつた襖の下張りから発見されたもの。（請求番号二〇二〇一一）



帝釈富くじの合鑑 (202011-1)

増尾家文書（寄贈）

増尾家は江戸時代以来広島城下新開組・観音村（広島市西区）に居住した。陸軍の重爆撃機の機長として台湾で墜落死した増尾繁人の関係資料や、増尾重明の満蒙開拓青少年義勇軍福田中隊に関する資料など三四点。（請求番号二〇二〇一一）

廣重家文書（寄贈）

佐伯郡小方村烏帽子新開（大竹市）で大正年間に操業した山陽製鉄所を中心とする写真三〇点。同製鉄所に勤務してい

た廣重顕治が所蔵していたもので、中華民国の陸軍関係者が厳島神社を参詣した際の記念写真には張学良（張作霖の子）も写る。（請求番号二〇二〇一三）

このほか、長船友則氏収集資料（寄託）

二〇〇四〇七）二五五点（本州四国連絡橋に関する図書など）、梶矢祥弘氏収集文書（寄贈、二〇〇五〇七）七点（歩兵第二十三連隊の「中隊戦記」や株式会社広島野球倶楽部株券など）、井上家文書（寄贈、二〇〇八〇八）二八二点（終戦直後の高校教員免許状など）、兼田文隆氏所蔵資料（寄贈、二〇二二一一）一点（DVD『四季の宮島 厳島神社』が追加された一方、広島銀行「創業百年史」編纂資料（一九九一〇九）五九点（看板など）、大内基康氏収集文書（一九九九〇八）二点（靈元天皇宸翰など）、三浦昇一資料（二〇一八〇六）七八点、計一三九点を返却した。この結果、合計古文書は二九〇、四一九点となった。

令和二年度の主なできごと

- 4月1日 新型コロナウイルス感染防止のため臨時休館（3月9日～5月23日）
- 7月10日 収蔵文書紹介展「広島島の路面電車―写真で見える創業・被爆・現在―」（～9月26日）

8月4日	安田女子大古文書学実習
9月7日	台風接近のため臨時休館
9月18日	行政文書・新収集古文書などを燻蒸（～9月23日）
10月5日	収蔵文書展「災害を語る歴史資料」（～12月26日）
10月6日	広文協研修会
10月8日	大型冷蔵庫で新規受入れ古文書を低温殺虫処理（～3月18日、3月18日～5月11日）
10月27日	閲覧室入口に非接触型検温消毒機を設置
11月18日	県庁選別収集文書を観音書庫へ搬入
11月19日	保存管理講習会
12月7日	第4書庫の一部にハンドル式集密書架を設置
1月19日	収蔵文書紹介展「新たに収集した文書からⅡ」（～3月19日）
1月28日	国立公文書館から職員四名へ認証アーキビストの認証状を交付
2月3日	比治山大学学外実習
3月1日	新データベースシステム稼働開始
3月17日	文書館だより45号発行
3月26日	資料集第11号発行
3月29日	収蔵文書展「資料からみた広島県庁舎の歴史」（～5月7日）

利用案内

■開館時間

\*月～金曜日 9時～17時  
\*土曜日 9時～12時  
\*日曜日、国民の祝日及び休日

■休館日

\*年末年始（12月28日～1月4日）

■交通

\*JR広島駅からバス（ベイシティ線 由広島港方面行き）で「広島県情報プラザ前」下車すぐ、又は路面電車（紙屋町経由広島港行き）で「広島本社前」下車約五〇〇m、広島県情報プラザ2F



広島県立文書館だより 第四十六号  
令和四（二〇二二）年三月九日発行  
編集発行 広島県立文書館  
広島市中区千田町三丁目七―四七  
電話 〇八二―二四五一八四四四  
FAX 〇八二―二四五一四五四一  
ホームページ  
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/moujokan/  
印刷 青木印刷株式会社